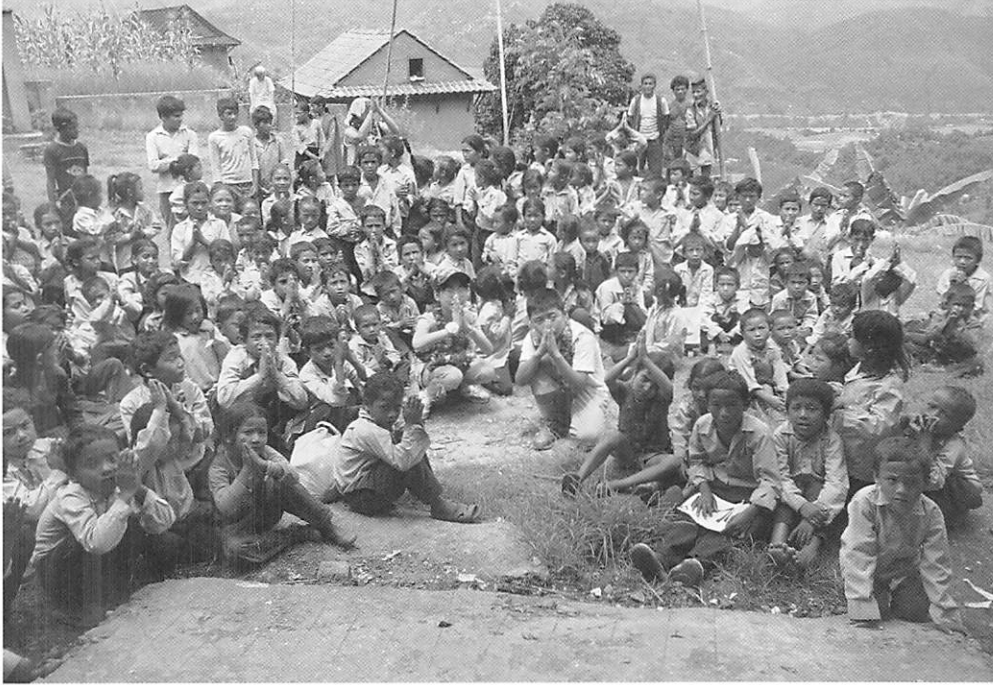




# ガハテ村通信

篠山ナマステ会 兵庫県篠山市住山420 TEL (079) 595-1365 振替口座 00930-6-29629



ネパール・スタディツアーを実施

## 篠山の小学生も訪問

### 次期PHD研修生に女性2人

篠山ナマステ会はPHD協会との共催で七月二十一日から二十九日、ネパール・スタディツアーを実施しました。今回は篠山から小学生二人が参加し、ガハテ村を訪れて子供たちと心を通わせ、言葉は通じないものの笑顔あふれる交流をしてくれました。

また、今回のツアーの目的の一つが、来年度のPHD研修生の選考でした。現地での面接の結果、セティディビ小学校卒業生であるミン・クマリ・タマンさんと、当会のカウンターパートのSSSスタッフ、ウルミラ・ライ・ダヌワールさんの二人の女性に決定しました。二人はこれから、来日に向けた事前研修を進めることとなります。

PHD協会と共同で企画・実施した今回のツアーは、総勢十三人（篠山ナマステ会六人、岡山市一人、池田市一人、豊中市一人、さいたま市一人、PHDスタッフ二人）の参加を得て実施。味間小学校の石井裕貴君、古市小学校の田中瑞姫さんの六年生二人も参加し、篠山市の小学校を代表して、セティディビ小学校との交流会を持ちました。（小）

## 2人の「親善大使」 心伝える

七月二十四日早朝、カトマンズをマイクロバスに乗車して出発。悪路を走ること三時間、更に徒歩で一時間余、ようやくガハテ村のセティディビ小学校に到着する。学校は夏休み中であつたにもかかわらず、三分の二ぐらいの児童と教員、それに多くの村人が迎えてくれ、交流会が始まつた。

石井君と田中さんはそれぞれの学校から持ち寄つた文具や友達の商品を手渡した。鉛筆、書写の作品、学校紹介写真や合唱テープ、折り紙で作つたコマ、行灯絵（和紙）、ドッジボール、オリジナル往復絵はがきなど。

二人はこの日に備えて一生懸命に準備を整え、二人の学校の級友と先生もしっかりと支えてくれた。大勢のセティディビ小学校の児童や先生、それに村人を前にして、きちんと説明を加えながら、篠山の子供たちの心を伝えた。

二人は最高の親善大使だった。ネパールの子供たちの笑顔も素晴らしかった。言葉が通じなくても心と心は通わせることができる。彼らはお互いにすぐ仲良くなり、篠山とガハテ村をつなぐ心の架け橋となることができた。

「ネパールツアーに参加して、本当によかった！」と二人が迷わず応えてくれたことは、これからの篠

山ナマステ会の活動の大きな励みとなる。

## セティディビ小学校から返信届く

オリジナル絵はがきは、両小学校の六年生らがセティディビ小学校の児童百八十名余にいきわたるように絵やメッセージを書き、併せて自分の住所を書いた返信用のはがきも手渡したものだ。

セティディビ小学校の児童は、夏休みが明けた八月に入ってからこの返信はがきに絵やメッセージを書き込み、篠山へ送ってくれた。

八月十八日ころからこのはがきが、はるばるネパールの空を渡って、両小学校の児童の自宅へ届き始めた。今、味間・古市両小学校の子供たちは、自分たちの心がネパールに届いた実感をかみしめている。  
.....

## 来年度のPHD研修生を選考



ミンさん



ウルミラさん

今回のツアーの大きな目標の一つに、来年度のPHD研修生をガハテ村から選考することがあった。

七月二十五日午前九時。面接会場となったクンタ村のSSS事務所研修室に男性三人、女性三人の候補者が集まった。うち女性二人は小学校の卒業生で、その他の候補者も学校の建設や運営に本人や家族が関わっていた。

面接は個別に行われ、志望の動機、日本で学ぶ目的、現在の仕事や帰国後の活動などについて、それぞれが生き方や現在の村の状況とリンクさせて、真

剣に思いを語ってくれた。

この日の午後と二十六日午前の二回に分けて村を歩いて各候補者の家庭を訪問し、日本への留学について家族の人たちとも意見を交わすことが出来た。

総合評価の結果、セティディビ小学校卒業生で、この春に第十学年を卒業した女性、ミン・クマリ・タマンさん（一七）が選ばれた。これまでのPHD研修生で最年少だそうだが、彼女の学ぶことへの意欲、厳しく自分を律する意志の力、村のために尽くそうとする姿勢は、決して他の候補者に勝るとも劣らぬものであった。

この選考結果について、現在来日中の研修生ビショウ・ジット・ラマ君の父上は、「自分の息子が選ばれたときよりもうれしい」と喜びを表現し、彼女をセティディビ小学校で教えた現校長は、「村の小学校の教育がこのような形で実を結ぶのは非常に意義あることだ」と挨拶をされた。

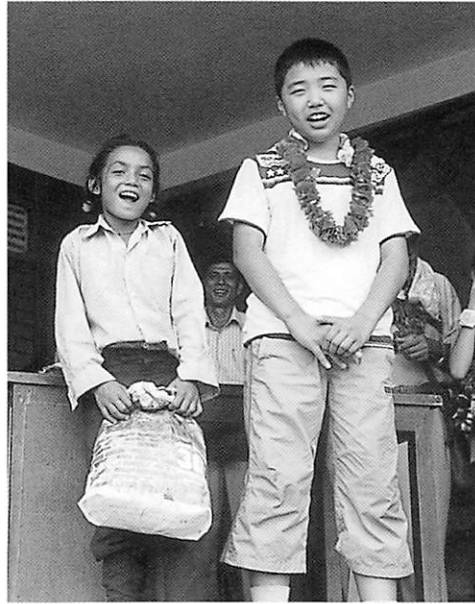
また、PHD協会が後日、来年度はネパールからの研修生を二人にすることに決めたため、クンタ村のSSS事務所スタッフ、ウルミラ・ライ・ダヌワールさん（二七）がもう一人の研修生に選ばれた。ウルミラさんは診療所で主に出産を担当していることから、病院等での専門的な研修も予定される。

## 教育（人づくり）を支援する意義

篠山ナマステ会はこれまで九カ年にわたつてセティディビ小学校の建設・運営を支援してきた。そしてPHD研修生の選考に臨んで、ガハテ村の人々と同じ感慨と喜びを分かち合うことが出来ている。

篠山ナマステ会の活動の意義を改めて思うと共に、彼女たちの日本での研修が充実したものとなるよう、大いに支援したいものである。

今回のネパール・スタディツアーに初めて参加した、二人の小学生の感想を紹介します。



### セティディビ小学校訪問

石井 裕 貴

いよいよこのネパールツアーでメインのセティディビ小学校との交流。

クンタ村から小学校のあるガハテ村まで一時間四十五分。ネパールに行く前から、山道を登るのに時間がかかってしんどい、と聞いていたが想像以上にきつかった。途中、木はあったが葉がなく、日陰がなかったので休けいするとよけいに暑かった。周りに見える家は土でできていて地震が起これば、こわれそうでこわかった。ほくたちが着くと、夏休みなのにたくさんの子供達が迎えてくれてうれしかった。

九年前に建てられたセティディビ小学校は、二階

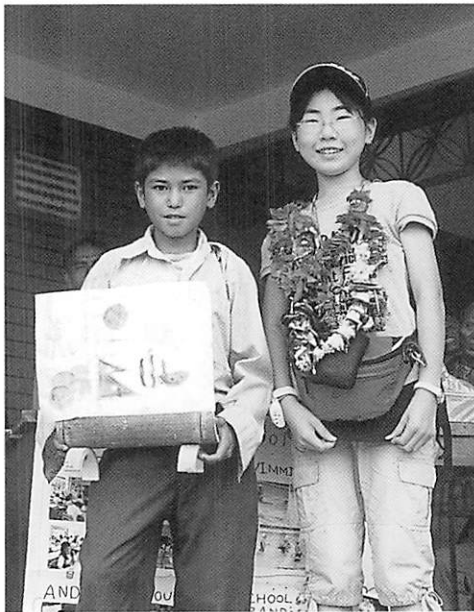
建てでコンクリートやレンガでできていて、教室の中には、机、いす、黒板だけだった。運動場は多くの学校の十五分の一ほどしかないけれど、学校から見える景色は自然がいっぱいで空気がきれいだった。多くの学校から預かってきたハガキや折紙で作ったコマをあげると、みんな喜んでくれた。学校から下りる途中、日本に研修に来ているビ

### ネパールへ行ったこと

田中 瑞 姫

初めての海外旅行、ネパールのセティディビ小学校へ訪問することになりました。

セティディビ小学校は文房具などがあまりないと聞いたので古市小学校の全校生徒に鉛筆と消しゴムと赤鉛筆を寄付してもらおうことにしました。すると全部で約三百四十本位集まりました。他に手作りあんどんと、六年生に書いてもらった手紙とハガキ



ショウ・ジツト・ラマさんの家族に出会うことができた。敷地内にできている小さなバナナをたくさんもらって食べた。取りたてでとてもおいしかった。このネパールツアーで、日本との生活のちがいがよくわかり、ほくたちはせいたくをしているなど思った。言葉は通じないけどたくさんさんの友達が遊べてよかった。また行く機会があれば行ってみたい。

とカセットテープとドッチボールを持っていきまし。六年生みんなが協力してくれたので、たくさん持つていくことができました。ありがとう。

ネパールに行くから四日目にセティディビ小学校に行きました。ネパールは、沖繩ぐらいの暑さで、がたがた道の山道を二時間ぐらい歩いてやっとセティディビ小学校に着きました。とってもしんどかったです。

学校に着いたら小学校のみんなが花で作ったレイを首にかけてくれました。それから、教室に行くと、私が二年生のときにみんなで作ったおりがみと似顔絵がはってありました。まさかセティディビ小学校に貼ってあるとは思いませんでした。それから、外に出てみんなの前で鉛筆やハガキを渡しました。みんなの前で話すのはとっても緊張したし、恥ずかしかったです。発表した後にみんな写真をとりました。

ネパールの旅行で一番思い出になったのは、ニーシャという女の子と友達になれたことです。短い時間だったけど、川を見に行ったり、野球をしたり、指相撲を教えて遊びました。言葉はわからないけどジェスチャーで何となくわかりました。またニーシャとあつて遊びたいです。

夏休みの終わりに、セティディビ小学校の皆さんから持って行ったハガキの返事が、味間小と古市小の六年生の皆の家に届きました。うれしかったです。

# ビシヨさん ただいま研修中!

PHD研修生として今年四月にガハテ村から来日したビシヨジツト・ラマ・タマンさん。ビシヨさんの愛称で親しまれ、各地で研修しています。

篠山市でもすでに二回の研修を行っています。一回目は六月二十四日から七月四日。緑肥を活用した土づくりや収穫調整などの有機農業研修、黒大豆播種と定植作業などを中末農園と渡辺農園で学びました。二回目の研修は七月二十九日から八月十一日で、ファーマーズマーケットと「旬の市」で朝市研修、黒大豆の草取りと施肥作業の研修を上田農園と渡辺農園で行ったほか、ごみ問題の研修として、中学校のリサイクル活動に汗を流したり、篠山市清掃センターを見学したりしました。また、十月七日から二十五日の予定で、三回目の篠山研修が予定されています。

篠山で研修受け入れを担当してくださった中末農園の中末智己さんに、ビシヨさんの様子について紹介してもらいました。



日本で様々な研修を積むビシヨさん。トラクター操縦にも挑戦

## 畑に響いたネパールの歌 豊かな感性と想像力に感銘

中末 智己

ネパールの研修生ビシヨさんを六月下旬から七月にかけて約十日間、いっしょに農作業を手伝っていただきました。

予定していた農家さんが都合で研修を受け入れられないとのことで渡辺さんから研修のお話をいただいたのは三週間ぐらい前のことでした。ネパール人を見たこともなかった私にとつて期待と不安が入り混じった気持ちで研修を始めることになりました。最初はきゅうりの芽かきときゅうりネットに誘引してもらった作業をしました。

何回か見本を見せてやってもらおうと、思っていた以上に覚えが早くすぐにできるようになり、仕事に慣れるとネパールの歌が畑に響いてくるようになっていきました。「本当にいろいろ覚えたい」という気持ちが伝わってきたので、トラクターに乗ったりポンプや草刈機を操作したり肥料の作り方や水の管理など私の知っていることはなんでも覚えていきました。彼のふるさとガハテ村の写真を見せてもらいすべて手作業、アナログ的だと感じました。

話は少し違うのですが、私の知り合いの写真家の方はこのデジタル全盛の時代にアナログカメラとモノクロにこだわっています。理由を聞くとデジタルの世界は「1」から始まり「0」(何もないところから想像する余地)がないのです。一方アナログは0を持っています。写真は鑑賞する人に想像させることが大切です。だから作品にはテーマはつけずに観る人の想像力にまかせる。モノクロは想像力を高めるのに極めて力を発揮するようだ、と。

日本に比べると決して物質的には豊かではないガハテ村ですが、ビシヨさんの豊かな感性と想像力。この力でも言っていた村の人たちのために力にきつとなれる、そう感じた研修でした。

## 地域活動の報告

### 十月に黒枝豆を初めて販売

十月四日の黒豆解禁を機に、篠山市内で秋の味覚を堪能できる様々なイベントが始まります。それに合わせ、当会も今回初めて黒枝豆の販売を行います。篠山地域で開かれる「丹波篠山味まつり」の初日、十月十日午前九時ごろから、東濠端の民家の庭先をお借りして、黒枝豆約二百束を販売する予定です。収益はセティデイビ小学校の運営支援に活用します。

### 今年もデカンショ募金を実施

今年も八月十五日の篠山デカンショ祭に、篠山鳳鳴高校インターアクト部の協力を得て街頭募金を行いました。募金を呼びかけると共にガハテ村通信を配布し、当会をアピール。約二時間で二六、二三〇円が集まりました。

### 来年度で設立10周年記念行事メンバー募集

篠山ナマステ会は平成二十二年度に設立十周年を迎えます。そこで、記念行事を企画するプロジェクトチームを結成するため、メンバーを募集します。当会会員を始め、広く市民のみなさんの応募をお待ちしています。連絡・問い合わせは事務局の小嶋(T E L 079・552・0260)までお願いします。